

2023年度水環境文化賞を受賞して

「水の都・三島」の汚れた水環境を地域協働で再生

特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島 理事長 小松 幸子

1. 「水の都・三島」の清流にゴミが捨てられドブ川化

静岡県三島市は古くより「水の都」と呼ばれ、市内各所で富士山の湧水が噴出する豊かな水辺自然環境を有していました。しかし、1960年以降には、上流地域での産業活動の活発化による地下水の汲み上げにより、湧水池・楽寿園小浜池も枯渇し、とくに、市内最大の湧水河川である源兵衛川では、ゴミが捨てられ生活雑排水が流入するドブ川と化してしまいました。

2. 英国発祥の「グラウンドワーク」を日本で最初に導入

「水の都・三島」の原風景・原自然を再生・復活すべく、1992年に「グラウンドワーク三島」を設立して、英国発祥の市民・NPO・行政・企業のパートナーシップによって環境改善を行う、グラウンドワークの手法を、日本で最初に三島に導入しました。

設立以来、グラウンドワーク三島は、31年間にわたり、複雑に絡み合った困難な地域課題を解決すべく、バラバラに活動し、利害が対立する、市民・NPO・行政・企業間の調整・仲介役を担い、環境改善活動をリードし、相互にメリットが甘受できる、共存共栄の新たな「地域協働」の仕組みづくりと、具体的な現場モデル・実践地を実施主体者として蓄積してきました。

3. 「右手にスコップ・左手に缶ビール」「議論よりアクション」が信条

活動の最初の成果は、ドブ川と化していた「源兵衛川」を、ホテルが乱舞し、子どもたちが川遊びに興ずる安全な水辺空間に創り上げた環境再生活動です。

また、環境悪化の進行により市内から姿を消した静岡県の天然記念物であるミシマバイカモを保護するための増殖基地である「三島梅花藻の里」を造成し、地域住民の地道な維持管理体制を構築して復活させました。

さらに、住民参加による「境川・清住緑地」の湧水公園づくりや「松毛川千年の森づくり」、歴史的な井戸や水神さんの保護・保全、荒れ果てた里山の再生、「環境出前講座」の開講、学校ビオトープの造成による環境教育活動など、三島市内を中心として75ヵ所において、市民力と地域力、現場力を結集した、多様な市民活動を実践し

てきています。

4. 代表的なプロジェクト

①源兵衛川でのエコロジーアップ活動

源兵衛川は、三島市の中心市街地に位置する全長1.5kmの農業用水路・都市河川です。1960年代半ばから深刻な環境悪化が進行しましたが、1990年以降、市民による年間40回以上の継続的な清掃活動と住民参加による親水公園化事業の計画づくり、農林水産省の水環境整備事業の導入などの総合的な取り組みにより、街中に豊かな水辺自然空間の原風景と水と触れあえる潤い場が再生し、現在、主要な観光スポットになっています。

②境川・清住緑地再生活動

2020年8月に境川・清住緑地が拡大され、富士山からの湧水が噴出する「水柱」が見学できる湧水公園が整備・完成しました。公園内には自然水路を造成し、ミシマバイカモを移植し、現在、定着して白い花を可憐に水中で咲かせています。



写真2 境川・清住緑地の湧水地

③松毛川千年の森づくり活動

本会では、松毛川を「千年の森」と位置付け、2003年から地域協働による環境改善活動を実施してきました。これまでに河畔約2.4kmに及ぶ竹林伐採や潜在自然植生の苗木6,000



写真3 松毛川千年の森

本以上の植樹、外来種ホテイアオイの駆逐、「松毛三日月会」などの地元愛護会の結成、自然観察会の開催、大学生の現場体験や企業のCSR活動の場として活用、県による「地域用水環境整備事業」の導入・提案を進めてきました。



写真1 汚れた源兵衛川の水辺再生のプロセス